

チャレ*くま通信

「チャレ*くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です

就職・検定情報

▽今月は3名の方が就職されました。介護施設の支援員（1名）と、医療法人の事務補助業務（2名）です。就職活動や就労訓練に直向きに取り組まれてきた、まさに三ツ星。資格取得やコミュニケーション力向上にたゆまず、力を注がれていました。磨き上げられた粘り強さと優しさで、職場を明るく照らし続けてくれるでしょう。就職、おめでとうございます。

▽資格試験ではMOS（Excel）スペシャリストに1名、合格されました。就労定着支援を利用されている卒業生です。資格取得により昇給されるようで、卒業後も勉強し続けています。当センターでMOS試験を受けられるので、ストレスなく受験できました。



編集部まえがき



頭に一番星を携（たずさ）えて雪化粧なんかして、いつもは履きもしない靴下なんかも履いてみたんだ。まるでディスコみたいなミラーボールは色んな表情が写っている。たくさんのリボンは髪飾りみたいで不思議と照れるように点滅してしまう。そんな今日の主役は私と君たちだ。

くま de レポート

この仕事を続けられている理由 ～卒業生懇談会・基調講演より～

2025年11月下旬、当センターの卒業生を迎え、「自分に合った職場・仕事の見つけ方」と題した懇談会を開催しました。今号では、その基調講演の内容をレポートします。情報システム企業の人事部に所属されている卒業生の講演です。

■就活でのつまずき

大学3年生の夏頃から就職活動を始めました。当時はコロナ禍で、説明会や選考はすべてオンライン。障害をオープンにして一人で続ける就活は次第に負担となり、思うような結果も出ないなか、限界を感じていました。そんな時、ハローワークの方から就労移行支援を勧められたんです。高校生のとき実習でお世話になったチャレジョブに大学4年生の夏から通うことになりました。大の苦手だったExcelの学習に挑みつつ、伝票入力や事務作業の訓練を行いました。伝票入力



就活でのつまずきと、それを克服した方法について語る

の訓練は実践的で、実務で大いに役立っています。一方、就活も同時並行で行いました。施設長の前で涙を流すほど不安におそわれた時期もありました。しかし、長い選考を経て内定を得たときには大きな安堵を感じました。大学卒業と同時に、社会人として踏み出せました。

■仕事を続ける支え

週5日勤務で、そのうち2・3日はテレワーク（在宅勤務）で働いています。勤務時間は午前9時開始で、ほぼフルタイムでの勤務です。

主な担当業務は転勤に関する書類チェックと健康保険加入証明書の発行手続きです。転勤書類のチェックはお金に関わることもあるため緊張感が高く、特に繁忙期は件数の多さにも追われ、神経をすり減らすことも多いですね。一方、健康保険加入証明書の業務は比較的落ち着いて取り組めるので、心の負担も少ないです。

仕事で失敗してしまうこともあります。原因と改善策を考えるのはもちろんですが、私の場合、一晩寝ると気持ち切り替えることができるんです。こんな自分の性格が、仕事を続ける支えになっています。

■いまの悩み



就活中、不安におそわれ施設長の前で涙することも

私には夢があります。身体障害のある子どもたちが、大学など高等教育への進学をためらわずに考えることができる社会にしたいのです。大学院に入学し、具体的な支援方法を研究したいと思っています。障害をもつ子に横たわる経済的な壁や心理的な困難、また、家族を取り巻く実情を明らかにしていきたいです。夢や目標は明確なもの、実は、そこへ至る道筋に悩んでいます。それでも、まだまだ時間はあると自分に言い聞かせ、仕事を続けながら、少しずつ自分なりの答えを見つけていきたいと思っています。

最後になりますが、就活に臨む人に伝えたいことがあります。「これでもいいや」という妥協ではなく、「よし、これでいい」と思えるところまで突き詰めてほしいです。もちろん、たまには息抜きもお忘れなく。